自分の人生のエキスパートとして生きる

リーダーシップと主体性に関する女の子の経験に耳を傾ける

Women Deliver 2023

目次

はじめに 3

女の子やユース女性の主体性とリーダーシップについて、私たちは何を知っているのか 4

女の子のリーダーシップと主体性に関する調査結果 6

主な発見1：女の子は公式・非公式両方の指導的役割を担っている 6

主な発見2：女の子は多様で僅かな違いがある方法で自身の主体性を表現する 9

主な発見3：女の子はリーダーシップを発揮する上で、根強い障壁があることを認識する 10

主な発見4：女の子は直面する障壁への対策を特定し、障壁を取り除く手助けをしてくれる人を求める 12

結論 14

提言 15

謝辞 19

調査方法 19

表紙写真© Plan International

「女の子運動（Movimiento por ser nina）」は、2018年からエクアドルでプラン・インターナショナルの支援を受けている市民社会組織である。すべての女の子、思春期の若者、ユース女性が権利を行使し、暴力におびえることなく生活できる社会を目指し、思春期の若者とユース、主に女性で構成されている。チンボラソでは、約70人の思春期の若者が政治的・活動的関与に重点を置いたさまざまなプロジェクト活動に参加し、あらゆる意思決定の場で思春期の若者が発言権を持つよう提唱している。グループのメンバーはまた、ジェンダー平等を推進し、差別や暴力のない公正な社会を築くために、ジェンダー・ステレオタイプや社会規範に挑戦している。

はじめに

2019年、プランは報告書「リーダーになる～女の子と若い女性が考えるリーダー像の意識調査～（Taking the Lead Girls and Young Women on Changing the Face of Leadership）」を発表した。リーダーシップを発揮したいという女の子たちの願望と、女の子とユース女性のリーダーが直面している現実を深く掘り下げたものである。それ以来4年間、プランは、女の子とユース女性のリーダーシップと主体性の経験を理解し、記録し、増幅するための調査を通じて、女の子とユース女性に対する傾聴を強化し続けてきた。女の子とユース女性の声を中心に据えることで、女の子とユース女性こそが自身の生活の真のエキスパートであり、自身に影響を与える問題の意思決定において中心的な役割を果たさなければならないことを示してきた。世界中の女の子とユース女性は、自身がリーダーであり、主体性があり、コミュニティや社会に真の永続的な変化をもたらすために何が必要かを知っていることを示している。彼女たちは、自分たちが参加し主導していく上での障壁を過小評価することなく、むしろ自身が直面している社会的・構造的な障壁と、それを取り除くための戦略の両方を特定している。ジェンダー平等と社会変革に向けた行動において、ユースをより広く中心に据える一環として、権力と資源を女の子とユース女性に移行させる必要があることは明らかである。

プランは、女の子とユース女性の声を中心に据えた調査を通じて得られた洞察から、女の子の主体性とリーダーシップの経験の微妙な違いを意識して理解しようと努めた。そのような調査を実施することで、女の子が自らの主体性を表現し、コミュニティ、国、そして国際レベルでリーダーシップを発揮する多様な方法を示すことができる。女の子やユース女性は伝統的な、あるいはより正式な方法を用いて、権力に物申すために公認された地位につくことで、変化を先導し、影響を及ぼしている場合もある。また、女の子やユース女性の行動や意思決定力をしばしば曖昧にしたり、弱めたりするような、伝統的な「リーダー」の定義に、彼女たちのリーダーシップが挑戦する場合もある。プランは女の子の主体性の微妙な変化を掘り下げるために調査を活用して、活動家のマララ・ユサフザイやグレタ・トゥーンベリのような、世間一般の女の子やユース女性の劇的で「英雄的」、あるいは「勇敢な」行動に焦点を当てた限定的な主体性の指標を飛び越え、女の子たちが生活の中で主体性を発揮する、一見すると控え目な、しかし強靭な方法を探っている。

プランは、2022年に開始した5カ年戦略の一環として、意義ある若者の参加と女の子のリーダーシップへの取り組みを表明し、2027年までにユース中心の組織になるという野心を打ち出した。この目標は、女の子の権利とジェンダー平等の促進を実現するためには不可欠と考えられている。ジェンダー平等に向けたいかなる行動も、影響を受ける人びとによって形作られ、創り出され、パートナーシップのもとで実施されなければ、永続的な変化を生み出すことはできない。プランが、リーダーシップと主体性に関する活動にユースを参加させ、彼らの経験と視点に導かれながら、政府、市民社会、開発部門に対する明確で実行可能な提言を策定しているのは、このためである。本報告書に掲載された提言は、2023年に開催されたWomen Deliver 会議のためにプランと協力したユース代表団が起草したものである。

本報告書は、リーダーシップの経験と彼女たちの主体性に関する、プランの女の子とユース女性との調査から得られた洞察を紹介するものである。証拠を統合した結果、4つの重要な発見があった。

1. 女の子は公式・非公式の指導的役割を担っている
2. 女の子は多様で僅かな違いがある方法で自身の主体性を表現する
3. 女の子はリーダーシップを発揮する上で、根強い障壁があることを認識する
4. 女の子は直面する障壁への対策を特定し、障壁を取り除く手助けをしてくれる人を求める

写真© Plan International
She Leadsは、女の子と女性が社会の制約から抜け出し、リーダーシップの役割を担うことを支援する。また、有害なジェンダー・ステレオタイプを根絶すると同時に、女の子やユース女性の安全な参加を促進する組織や団体における意思決定のメカニズムを構築する。

女の子やユース女性の主体性とリーダーシップについて、私たちは何を知っているのか

プランは過去4年間にわたり、女の子やユース女性を対象とした様々な調査を実施し、彼女たちの主体性やリーダーシップに関する経験や認識を掘り起こし、問いてきた。本報告書は、「リーダーになる～女の子と若い女性が考えるリーダー像の意識調査～」（2019年）、「世界ガールズ・レポート2022：今こそ平等な力を：女の子と若い女性の政治参加（State of the World's Girls: Equal Power Now）」（2022年）、そして18年間にわたるコホート調査「現実の選択、現実の生活（Real Choices, Real Lives）」から得られた洞察を統合したものである。

この報告書には、2023年Women Deliver会議のために特別に策定された、女の子自身による提言も含まれている。

リーダーになる（*Taking the Lead*）

この調査は、2019年に19カ国で女の子とユース女性を対象にアンケート調査を実施し、そのうちの5カ国で詳細なフォーカス・グループ・ディスカッション(FGD)を行い、補完された。調査全体のサンプル数は1万64人で、FGDの参加者は413人であった。本調査の目的は、女の子とユース女性にとってリーダーになるとはどういうことか、何が彼女たちのリーダー願望を後押し、または削ぐものかを理解するために、知識のギャップを埋めることであった。

REPORT

この調査では、ユース女性たちに、キャリア、国、コミュニティ、家族といった観点からのリーダーシップへの抱負を尋ねた。FGDのツールは、参加型に設計され、2つの主要な活動、すなわちボディマッピングと、ユース女性の人生における影響と考えの主な源を測定しようとする活動に使用された。

世界ガールズ・レポート 2022：今こそ平等な力を：女の子と若い女性の政治参加（*State of the World's Girls: Equal Power Now*）

REPORT

プランは、2007年に初めて『世界ガールズ・レポート』を発行した。女の子とユース女性の政治参加に関する2022年版報告書は、毎年、特定の環境または分野において女の子の自由と機会を制限している行動、態度、信念を調査してきた新シリーズの5作目である。

2022年の調査は、29カ国で約2万9,000人の思春期の女の子とユース女性を対象にした調査や、18カ国での詳細なインタビューなど、混合法を用いて36カ国で実施された。この調査は、女の子とユース女性の政治参加に焦点を当て、この結果は、世界的な調査データと若い活動家の質的データの両方から得られたものである。

現実の選択、現実の生活（*Real Choices, Real Lives*）

WEBSITE

現実の選択、現実の生活は、2006年から始まった、3つの地域・9カ国[1]に住む女の子[2]の人生を追跡調査した、質的な縦断研究である。データ収集は女の子が18歳になる2024年まで続けられ、女の子を幼児期から思春期まで追跡する数少ない既存のコホート調査のひとつとなっている。調査は、1年または2年ごとの詳細なインタビューを通じて、女の子の生きた現実の僅かな違いを捉えている。多様な文脈やテーマ領域におけるジェンダーと年齢の交差を調査することで、この調査は、ジェンダー化された世界で成長する女の子に共通する経験と、すべての女の子の人生を独特なものにし、女の子が遭遇する機会と課題を形作る要因の両方を提示することができる。

2022年、調査対象9カ国のうち7カ国[3]の女の子が、上記の「世界ガールズ・レポート2022」調査のデータ収集に参加した。この調査では特に、政治に対する女の子の視点と、地方、国、国際レベルでのリーダーシップと参加の経験について調査した。結果は、このデータと、2021年に女の子全員を対象に行われた年次データ収集結果の統合から得られたものだ。「現実の選択、現実の生活」調査から得られた証拠は、女の子の主体性と日常的なリーダーシップの多面的な性質を浮き彫りにしている。

匿名性を確保するため、女の子やユース女性の名前は変更されている。

1 ベナン、ブラジル、カンボジア、ドミニカ共和国、エルサルバドル、フィリピン、トーゴ、ウガンダ、ベトナム。
2 2022年には114人の女の子がこの調査に参加していた。
3 ウガンダとカンボジアのコホートは2022年には参加できなかった。

写真© Plan International
女の子運動（Movimiento por ser niña）は、2018年からエクアドルでプランの支援を受けている市民社会団体である。

女の子のリーダーシップと主体性に関する調査結果

主な発見1:
女の子は公式・非公式両方の指導的役割を担っている

世界中の女の子とユース女性は、変革者としてのリーダーシップを発揮し、コミュニティにおけるジェンダー正義の問題に積極的に取り組み、他のユースやより広い社会のために前向きな変化を促している。プランの調査によると、女の子とユース女性は、国や世界レベルだけでなく、コミュニティでも特定のリーダーシップを発揮している。

2019年の「リーダーになる」調査によると、**調査に参加した1万人超の女の子とユース女性のうち、85%が少なくとも1回はリーダーシップを発揮した経験があり、25%は複数のリーダーシップを発揮した経験があると報告している。**また、調査参加者の4分の3超が、自身の国やコミュニティ、あるいは職業上のキャリアにおいてリーダーになることを目指していると答えた。

レバノンのJenのような女の子やユース女性は、自身の生活や仲間に影響を与えている問題を認識した後、指導的な役割を担うようになったと語る。Jenは、女の子たちの代表性におけるギャップを認識するだけでなく、前向きな変化を導くために行動を起こすことで、自身の仕事において明確な主体性を示している。

「私の村には女の子を代表するものがなかったです。だから2016年、私が16歳のときに、小さな取り組みをしようとしました。私自身の考えでした。自治体選挙があったので、私はフェイスブックのアカウントとグループを作り、自治体選挙についてもっと知ってもらい、自身の姓や宗派などとは関係なく、自身を代表するプログラムを選ぶ方法を知ってもらいました。

そして、女の子や女性たちが選挙に参加し、隠れることなく、怖がらずに選挙に参加する方法についても取り組みました。」

Jen、23歳、レバノン、
「世界ガールズ・レポート」、2022

プランの調査の参加者の多くは、同様の非公式なタイプのリーダーシップ経験について述べている。場合によっては、女の子やユース女性は、自身のコミュニティで当局が対処していない問題に対して集団的な行動を起こし、幅広い集団の一員としてリーダーシップを発揮したと報告した。例えば、ブラジルのJulianaは、自身の学校で仲間とともに抗議行動を組織し、全生徒にプラスの変化をもたらすことに成功したと説明した。

「先生がいないときは、すごく早く授業を切り上げました。水も軽食もトイレも、何もかもが不足していたんです。それで私たちは抗議行動を起こし、理科の先生のところに行って、助けてもらったんです。それを見た校長先生は怒って、何かしようと決めたんです。時が経つにつれて、状況は良くなっていきました。」

Juliana、16歳、ブラジル、
「現実の選択、現実の生活」、2022年

多様な背景を持つ女の子やユース女性に話を聞くと、彼女たちのリーダーシップは、重要な責任と権力を持つ特定の役職に就くという、公的な場面でも多く発揮されることがわかった。ベトナムのJanellは、リーダーシップに関係した仕事と、その地位がどのように政府に影響を与え、コミュニティの人びとに役立っているかを説明した。

「私は『ユース諮問委員会長』という肩書きを持っているので、ユース連合や政府とも仕事をする機会が多いです。政府が何か政策を出したり、私たちに影響を与えるプロジェクトを実施したりするときは、いつでも私たちはそれについて諮問を行います。私たちはその提案を読み、何が障害になるのか、何が制限になるのか、それはすべての人を支援するのか、それともコミュニティの誰かを傷つけるのか、などを確認します。」

Janell、24歳、ベトナム、
「世界ガールズ・レポート」、2022年

プランの「She Leads」プログラム

She Leadsは、オランダ外務省がオランダのプラン・インターナショナルを通じて資金を提供する5年間のプログラムで、女の子やユース女性が主導する活動の支援に焦点を当てている。このプログラムは9カ国（マリ、シエラレオネ、ガーナ、リベリア、エチオピア、ケニア、ウガンダ、ヨルダン、レバノン）で実施されている。

「私は自身のコミュニティに変化をもたらしていると感じています。指導者たちが、ある程度は女の子やユース女性の意見を考慮してくれていると、今は確信しています。私が影響を与えられたいくつかの決定を考えると、私は仲間の女の子の生活に影響を与えることができました。」

Patricia、19歳、She Leads、ウガンダ
「世界ガールズ・レポート」、2022年

She Leads Global Advocacy Networkは、女の子とユース女性が国連における国際的な政策プロセスに関与し、影響を与えることを支援している。西アフリカと東アフリカから14人の女の子とユース女性の代表団が第66回女性の地位委員会へ参加するための支援や、アフリカと中東の6カ国から14人の女の子とユース女性のグループが、人権理事会で特に女の子とユース女性の運動というテーマに焦点を当て意見を述べることを支援した。

「私たちは、女の子が育つ環境を、その生い立ちとともに考え直し、再構築しなければなりません…女の子や女性の声、意見、考えのための場所を作るために、現実を変えることが重要なのです。」

Lujain、17歳、She Leads、ヨルダン
「世界ガールズ・レポート」、2022年

女の子やユース女性もまた、リーダーシップとはどのようなものかを再定義し、正式な活動にも非正式な活動にも参加し、そうすることでリーダーシップや参加に関する伝統的な理解に挑戦している。

プランが19カ国の女の子とユース女性を対象に行った調査によると、女の子は伝統的なリーダーシップの役割を担うことよりも、協力的な変革の担い手となることを望んでいることがわかった。女の子は、地位や階層といったリーダーシップと権力の地位という従来の結びつきを否定し、その代わりに、コミュニティと協力して前向きな変化をもたらすリーダーの可能性に価値を置いている。このようにして女の子は、社会正義とジェンダー平等を推進するために、優しさと公正さを評価し、現状に挑戦する、自身のようなリーダーの必要性も認識している。

「女性リーダーは、他の人とは違う方法で未来を見なければならないでしょう。それがリーダーたるゆえんであり、夢の実現のために何をしなければいけないかを他の人たちに説き、助言するのです。」

女の子、15～17歳、ドミニカ共和国、
「リーダーになる」、2019年

活動家と、活動家ではない女の子やユース女性の両方を対象とした調査では、多くの人が自身のリーダーとしての能力に自信を持っているが、主要な構造的障壁がそれを阻んでいることがわかった。リーダーになる調査では、回答者の62%が、自分の指導力に自信がある、またはとても自信があると答えた。

現実の選択、現実の生活調査に参加した女の子の中には、リーダーになる自信は、市民としての権利の認識と結びついている者もいた。

「学校では私たちにも権利があると教わりました。だから、私たちが下さなければいけない決定について意見を述べるために代議員のところに行くこともできるし、地区長や市長に手紙を書くこともできます。代議員のところに行っても話を聞いてもらえなかったら、同じ悩みを持つ仲間を探して、一緒に区長のところに行くこともできます。」

Hang、16歳、ベトナム、
「現実の選択、現実の生活」、2022年

2022年に行われた 世界ガールズ・レポート調査のために、女の子とユース女性を対象に行われた調査では、回答者の半数強（52%）が、社会的、政治的、経済的問題について仲間の前で発言する自信があると感じ、半数弱（48%）が、自身が情熱を傾けている問題について、変化を達成するために仲間の集団を組織する自信があると感じていることがわかった。

発言し、主導する自信は、自尊心や個人の能力を反映しているように見えるかもしれないが、質的データによると、自信はしばしば女の子やユース女性の環境と結びついている。現実の選択、現実の生活調査の参加者であるMichelleは、*「恥ずかしくなる」*と述べ、リーダーとしての自信は低いと評価したが、さらに加えて、これは*「聞いてもらえないかもしれない」（Michelle、15歳、フィリピン、「現実の選択、現実の生活」、2022年）*と、自身が他人からどう受け止められるかという懸念と結びついていることを強調した。

2019年、プランが多様な年齢、収入状況、教育レベル、結婚の有無、地理的な場所にわたる女の子やユース女性を対象に行った調査では、自身のリーダーシップ能力に自信を示す可能性が最も高いユース女性の特徴が明らかになった。そのユース女性とは、「リーダーになる」によれば、「**約22歳、既婚、アフリカの低所得国出身、高等教育を受けており、裕福で一般的に高学歴のバックグラウンドを持っている**」。

この調査ではまた、既婚のユース女性は一般的に、自分のリーダーシップ能力により自信を示しており、社会的地位の低い女の子やユース女性は、コミュニティのリーダーになることを熱望する傾向が高いこともわかった。2022年、世界ガールズ・レポート調査では更に、人種的・民族的・宗教的マイノリティであると自認する女の子やユース女性は、指導的役割を担うことを含め、公式・非公式の政治活動に参加することに自信があると報告する傾向が強いことがわかった。対照的に、障害のある回答者やLGBTQI+と自認する回答者は、指導したり参加したりすることに自信があると回答する傾向が低いことが、同調査でわかった。

自身のリーダーシップ能力に高い自信を示し、活動やキャンペーンを通じてその能力を発揮することが多い女の子やユース女性は、女の子や女性がリーダーシップを発揮することを阻む構造的な障壁を浮き彫りにした。

個人の能力に対する自信や、意思決定の場における自身のスキルや声の必要性に対する認識は、意見を聞いてもらう機会がないために損なわれている。Marchessaが説明したように、問題は彼女の能力ではなく、意思決定の場へのアクセスを得ることにある。

「ええ、できます…問題を提示する機会があれば…問題を取り上げる機会があればね。」

Marchessa、22歳、タンザニア、「世界ガールズ・レポート」、2022年

主な発見2:
女の子は多様で僅かな違いがある方法で自身の主体性を表現する

現実の選択、現実の生活調査から得られた質的・縦断的データを調査することで、国際開発では見過ごされがちな、女の子の主体性のより細かな表現を特定することができた。

10代になった「現実の選択、現実の生活」調査に参加した女の子は、2021年と2022年のデータが示すように、気候変動、COVID-19の永続的な影響、世界的な生活費の上昇、コミュニティにおける性暴力の蔓延、政治的リーダーシップにおける明確なジェンダー格差と偏見など、複数の慢性的な危機の中でも、確実に成長していた。はっきりしているのは、こうした危機にもかかわらず、女の子が未来をどのように想像するかによって、女の子の主体性が持続しているということだ。女の子の願望は、そのような状況に生きる女の子たちの主体性を明らかにするものであり、グローバル・サウスの女の子に結びついた絶望という支配的で問題のある表現に挑戦するものである。「現実の選択、現実の生活」調査に参加した女の子は、明確な目標を持ち、自身の置かれた状況についての専門的な知識に基づき、女の子や自身のコミュニティの他のメンバーが直面している課題に取り組む抱負を通して、女の子の主体性を示していた。

調査期間中、トーゴ出身のAziaは、自国の医療事情と強く結びついた将来の野望について語り続けてきた。Aziaは当初、家族や地域の健康に貢献するために看護師になるつもりだと説明していた。*「病気の人の世話をしたり、家族の面倒を見たりするためです」*、*“自身のコミュニティや国の人々を助け、ケアするためです”*（16歳、2022年）と、保健大臣になることで国家レベルで医療を改善したいという願望へと発展した。

Aziaの主体性の変化は、明らかだ。第一に、彼女がなぜこの分野で働こうと思ったのか、家族のケアからコミュニティ、そして国をケアすることまで、明確に表現している点。第二に彼女の野望の発展が挙げられる。彼女は、医療の状況にどのように対処したいかについて考えを変え、複数の選択肢と戦略を模索している。こうしたさまざまな選択肢を持ち、積極的に模索すること自体が、主体性の指標となる。

ベナンのAnnabelleは、より良い未来への願いと、女の子やユース女性がコミュニティでどのように支援され得るかを示唆した。

「私は（政治指導者たちに）女性がローンを組めるようにすることと、女子教育を無償にして、中等学校の上級レベルに達した女の子は無償で面倒を見てもらえるようにすることを要請するつもりです。」

Annabelle、15歳、ベナン、2021年

Annabelleは、女の子やユース女性が直面する困難を振り返り、この状況においてより良い結果を導く方法を積極的に選択した。

「現実の選択、現実の生活」のデータから得られる、女の子の主体性をめぐるもう一つの変化は、女の子の願望が正規教育から外れたところにもあるという点だ。これは、正規の教育を受けることが、グローバル・サウスの女の子にとって唯一の直線的な達成であると枠にあてはめがちな考えに対する重大な指摘となる。

Biancaの教育とキャリアの願望は、彼女自身の将来への希望と、他の人々をどのように助けたいかを示している。

「心理学を専攻したいと思ったのは…自尊心や不安の問題を抱えている人たちを助けたいという夢があるからです…」

Bianca、15歳、ブラジル、2021年

Biancaは、自分の置かれた現状の危機を改善する未来を想像しており、その夢を実現するための道筋として学位取得を挙げている。

写真© Plan International
ユニセフによれば、世界で最も早すぎる結婚率が高い国であるニジェールでは、プランの支援を受けた女の子と女性の団体が、2020年以来、危機の影響を受けた地域を含め、性と生殖に関する健康と権利のために闘ってきた。

主な発見3:
女の子はリーダーシップを発揮する上で、根強い障壁があることを認識している

女の子やユース女性は、自身の生活や、仲間やコミュニティに影響を及ぼす問題のエキスパートである。3つの調査の参加者は、彼女たちがリーダーシップの役割や意思決定の場にアクセスする上で、数多くの強固な障壁があることを特定した。

性差別とジェンダー・ステレオタイプ

3つの研究を通して、多様な状況にいる女の子とユース女性は、ジェンダー・ステレオタイプや、女の子や女性にとって何が許され、何が許されない行動なのかという意見が、彼女たちのリーダーとしての能力にとって重要な課題となっていることを報告した。フィリピンのJocelyn（16歳）は、自身のコミュニティでは、女の子や女性のリーダーについて否定的な思い込みがあると説明した。「(彼女たちは)ただ注目されたいと思っているだけなのではないかと思われているからです」（「現実の選択、現実の生活」、2022年）。ドミニカ共和国のユース女性は、職場の女性についても同じような状況があると述べた:「職場でさえ、女性のリーダーは邪魔をしていると思われるから、よく思われません」（17～21歳、「リーダーになる」、2019年）。ウガンダの活動家であるRainbowは、女性の「許容される」行動に関する厳しい規則が、発言することそのものが無礼とみなされるため、リーダーとしての妨げになっていることを指摘している。

「女性が立ち上がって発言しようとすると…ほとんどの男性や社会は、それを他人を見下していると受け止めるかもしれない。だから、たとえ女性たちがいても、彼女たちはまだ自分の居場所を確保するために奮闘し、女性も男性のように有能であることを人々に示すために奮闘しています。」

Rainbow、ウガンダ、
「世界ガールズ・レポート」、2022年

94%

の世界ガールズ・レポート調査回答者が、女の子やユース女性が政治に参加しようとする際に、さまざまな課題に直面する可能性があると指摘している

19%

の世界ガールズ・レポート調査参加者が、個人的に意思決定に参加する意欲を削がれたことがあると答えた

「リーダーになる」によると、リーダーシップの経験がある女の子やユース女性ほど、女性リーダーがジェンダーによる差別に直面していると回答する傾向が強く、94%が「女性リーダーはジェンダーによって待遇が悪くなる」と回答した（リーダーシップの経験がない回答者は88%）。

男女のダブルスタンダード

同調査によると、女の子とユース女性の大多数（94%）が、指導的立場にある女性はそのジェンダーを理由に待遇が悪いと考えている。また、指導的立場にある女性が尊敬されるためには、男性よりも努力しなければならないという意見も、54%に対して65%と、指導的立場の経験がある女の子や女性の方が多かった。これは、「現実の選択、現実の生活」と「世界ガールズ・レポート」の調査に参加した女の子たちからも指摘された見解である。女の子や女性のリーダーは、男性とは異なる判断を下され、より高い、時には矛盾した基準を課されることが多い。ベトナムのHangは、自身がリーダーになることをためらう理由を説明した際、こうしたダブルスタンダードを強調した。

「男性リーダーと女性リーダーが同じミスを犯した場合、女性リーダーの方がより非難されるでしょう。」

Hang、16歳、
「現実の選択、現実の生活」、2022年

ドイツの活動家であるAnnaは、指導的立場にある女性に課された、不可能に近い期待を乗り越えてきた自身の経験について語った。

「面白いもので、言われることすべてが参加するためにはこういうスキルが必要だとか、こういうことができるようになるべきだとか、だと思うんです。こうでなければならないとか…自分の意見を言えて、それを邪魔されずに言えて、強くなれて、ちょっと冷たいけど冷たすぎないとか…私たちは女性に、その前に3ページ分のスキルが必要だと教えている。」

Anna、23歳、ドイツ、
「世界ガールズ・レポート」、2022年

年齢やジェンダーによる差別

プランの思春期の女の子とユース女性を対象とした調査は、見過ごされがちな差別の更なる交錯を捉えている。特に、女の子が直面する、年齢とジェンダーに関連する規範の両方による二重の課題は、彼女たちの貢献を軽んじ、意思決定の場へのアクセスを制限するものである。「世界ガールズ・レポート」の調査参加者の3分の1超（35%）が、自国の指導者が女の子やユース女性の意見に耳を傾けているとは思わないと回答している。

「ある場所に行って…女性が社会のリーダーとして参加する方法について話したことがありました。『何をやっているのか分かっているのか。君はとても若い。君は分かってないはずだ。』年齢を理由に無視されるのです。」

Marchessa、22歳、タンザニア、
「世界ガールズ・レポート」、2022年

このことは、「現実の選択、現実の生活」調査に参加した女の子たちも強調している。彼女たちのコミュニティでは、政治や政治参加について話すとき、これは「大人の事柄」とみなされ、大人はこの領域で女の子の意見を重視していないと報告した。ある問題について発言すれば、明白な落胆や批判に 直面することを恐れていると説明する女の子もいる。

ブラジルのAmanda（16歳）は、大人は「私たちが何も知らない[社会・政治問題]について話すのには若すぎる」(「現実の選択、現実の生活」、2022年)と考えていると話した。年齢やジェンダーをめぐるコミュニティ規範のような構造的な障壁もまた、女の子の声が聞かれるかに影響を与える。女の子に影響する問題の解決策を携えてコミュニティリーダーのところに行った女の子の話を聞いたフィリピンのJasmineは、その女の子を「勇敢」だと表現した。これは、その女の子の性格によるものではなく、Jasmineのコミュニティでは、このような行動をとることは規範に反することであり、社会的制裁を受ける危険性があったからである。

「…(バランガイ)キャプテンと話すのが怖いからです。彼と顔を合わせることは許されていないので、合わせたいとも思いません。」

Jasmine、15歳、フィリピン、
「現実の選択、現実の生活」、2021年

Jasmineの例は、女の子のエンパワーメントに関する議論の問題点を示している。それは、女の子が自信を持ち、「力を与えられ」、積極的にコミュニティの問題を解決するよう不当な負担を強いるものだ。

反動への恐れ

女の子に「力を与える」だけでは、リーダーシップを阻む構造的な障壁や、発言することで直面し得る反発には対処できない。ウガンダのAmeliaは、自身の意見を言う女の子が直面する反発をよく知っていた。

「女の子が積極的な考えを持つと、他の人たちから『そんなことはできない』と反対され、否定される」

（Amelia、15歳、ウガンダ、「現実の選択、現実の生活」、2021年）。

男の子や男性からの言葉や身体的な暴力やハラスメントへの恐怖は、リーダーシップを果たすことについて話し合う際に、女の子やユース女性が共通して抱く懸念事項であった。

「リーダーになる」では、リーダー経験のある回答者の93%が、リーダー的役割を担う女性は望まない身体的接触を経験すると答えている。

これは個人的なリーダーシップ経験に基づくものであり、フィリピンのDarnaは、学校の最高評議会の書記として権威を主張しようとしたとき、男の同級生からの脅迫に直面した。

「私がクラスのリーダーになったとき、他の生徒、特に男の子がついてこないから大変でした。殴られそうで怖かったし…リーダーにはなりたくないみたいに感じました。」

Darna、16歳、フィリピン、「現実の選択、現実の生活」、2022年

主な発見4：
女の子は直面する障壁への対策を特定し、障壁を取り除く手助けをしてくれる人を求める

プランの調査によると、女の子がリーダーシップを発揮する上で直面する障壁だけでなく、大人、コミュニティ、政府、NGOがこうした障壁を取り払うことで女の子をどのように支援できるかについても、女の子が主導している。女の子の声を中心に据え、傾聴する質的調査は、細かい部分を捉え、女の子を効果的に支援する方法について提言を提供することができる。女の子はリーダーであり、意思決定に関わるべきであるが、ジェンダー不平等のような社会問題を「解決」するのは女の子個人の責任ではない。根深い不平等なジェンダー規範に取り組む試みから、彼女たちのリーダーとしての能力を高めることができる主な実現要因や関係者を特定することまで、女の子やユース女性は、大人や政府、NGOが彼女たちをどのように支援すべきかを明確に理解している。

両親や養育者、親族が果たす役割は重要である。幼い頃から女の子を応援することで、個人レベルでの可能性を引き出すことができる。

「彼女がリーダーになれたのは、幼い頃に両親が助けてくれたからだと思います。彼らは彼女に助言を与え、強くなるための動機づけをし、人とうまく付き合い、人の話を聞き、人を助ける方法を知らなければならないと教えたのです。」

女の子、15～17歳、ドミニカ共和国、「リーダーになる」、2019年

その責任は、女の子のコミュニティ、市民社会、女の子たちやユース女性の声を尊重する環境を実現し、彼女たちのリーダーシップを妨げる構造的な障壁を取り除くことに取り組める政策立案者にまで及ぶ。更に、政府、メディア、企業部門は模範を示し、公のキャンペーンを通じて、あらゆるレベルで性差別と差別に挑戦すべきである。

リーダーになる調査に参加した女の子やユース女性は、ロールモデルやリーダーシップ経験の力を強調している。

「私のロールモデルは母です…母の支援なしには何もできないと思っています。ソーシャルワーカーでもある母からアイデアを得て、社会に前向きな変化をもたらしたいです。」

ユース女性、21～24歳、インド、
「リーダーになる」、2019年

「ユース女性リーダーは、女性に優しい未来を見るべきです。彼女たちもそれを享受し得るのですから。」

女の子、15～16歳、日本、
「リーダーになる」、2019年

現実の選択、現実の生活調査に参加した女の子は、ジェンダー差別とジェンダーに基づく暴力の根源が、男の子の社会化にあることを特定した。彼女たちは、有害なジェンダー規範を蔓延させるのではなく、男の子をジェンダー平等の推進者に育てるよう保護者に求めた。

「…息子に性差別をしないように、女性を尊重するように教育するようにです。」

Susana、15歳、エルサルバドル、
「現実の選択、現実の生活」、2021年

「というのも、彼ら（男の子や男性）は生まれつきそう（攻撃的で暴力的）なのではなく、育て方次第だからです。」

Bianca、15歳、ブラジル、
「現実の選択、現実の生活」、2021年

「…すべての男の子や男性が女性に対して攻撃的なわけではなく、女性を尊重する男性もいるし、正しい価値観を持って育ったかどうかによるのかもしれません。」

Mariel、15歳、エルサルバドル、
「現実の選択、現実の生活」、2021年

このように、自身のコミュニティが抱える問題を解決に導く、あるいは実際に「解決」するために、しばしば彼女たちに課される個人の重荷を彼女たちは拒否し、その代わりに、有害なジェンダー規範に異議を唱えるよう大人やより広い社会に求めるのだ。

女の子はまた、指導的役割へのアクセスを改善するために、単に女の子の参加機会を求めるだけでなく、大人が耳を傾け、ユースのニーズを優先するよう求めるという、二層構造の試みを求めた。

「[大人は]私たち女の子の声に耳を傾ける必要があります。私たちも意見を言わなければならないからです。私たちを排除せず、考慮してくれるべきです。」

Hillary、16歳、エルサルバドル、
「現実の選択、現実の生活」、2022年

結論

プランの調査は、世界中で女の子とユース女性がリーダーシップの役割を担い、自らの主体性を発揮している多くの方法を例証している。年齢やジェンダーに基づく根強い障壁や差別に直面しながらも、女の子やユース女性たちは自身のコミュニティに参加し、発言し、主導し続けている。女の子は常に、自身が将来ではなく今、地域、国、国際レベルで前向きな変化をもたらす有能なリーダーであることを示している。リーダーの意味を再定義することで、女の子は、女の子やユース女性の日常生活に影響を及ぼしている問題をしばしば看過し、少数に利益をもたらす制度や行動に挑戦している。女の子は、意思決定に有意義かつ安全に参加するために必要な行動を知っているが、それを妨げている障壁を取り除くのは女の子個人の責任ではない。女の子たちの声に耳を傾け、その声を確実に広めることによってのみ、ジェンダー平等に向けた行動は効果的かつ永続的なものとなる。

写真© Plan International
グアテマラの国際ガールズ・デーに際し、グアテマラ全土の女の子リーダーが一堂に会し、同国初の女の子議会を結成した。全体会議では、8歳～17歳までの女の子が、それぞれのコミュニティで女の子に影響を及ぼしている問題のいくつかを共有し、解決策を提案した。

提言

この統合報告書に示された提言は、2023年Women Deliver会議にプランのユース代表として参加する4カ国（ケニア、ウガンダ、ニカラグア、ヨルダン）のユース女性との共同作業によって作成された。2023年5月に開催されたオンライン・ワークショップでは、ユース代表団が一堂に会し、統合報告書と彼女たち自身のリーダーシップの経験に基づいて、調査結果を議論し、提言をまとめた。

ユース代表団が共有した提言の中核には、いくつかの重要な推進アイデアがあった。

「女の子と女性に自分たちの意見を言わせる。」

ユース代表、ワークショップ、2023年

「女の子やユース女性として現在直面している課題の解決策は、私たちの中にある。」

ユース代表、ワークショップ、2023年

「多様な女性を対象とした運動を展開する。」

ユース代表、ワークショップ、2023年

ユース代表団は、この統合報告書から得た知見を振り返りながら、リーダーとして直面する課題について、自らの経験を話し合った。中には、女の子や女性のリーダーが失敗するように課された、不可能な程高い基準を仕向けられたと語る者もいた。

「私の仕事では完璧であることを求められます。ちょっとでもミスをすると、『君は女性だから、こういうことができないのだ』と言われるようになりました。」

ユース代表、ワークショップ、2023年

彼女たちはまた、発言する際に年齢によって調査参加者と同様の差別を経験したことも共有している。

「あなたが自分より年下だと知ると、彼らはあなたの指摘を否定します。」

ユース代表、ワークショップ、2023年

伝統的にゲイ男性が支配してきたクィア空間でのアドボカシー活動を主導することについて、あるユース代表は、彼らが若い頃に経験した性差別と年齢差別の複合が、年齢を重ねても続いていると説明した。

「人は自身のいうことが実行されるのを期待しているため、ジェンダー・ステレオタイプや性差別が横行しています。また、年齢を理由に聞いてもらえないのです…私が提唱活動を始めたのは、23歳か24歳というかなり若いときでした。当時は、私の言うことに耳を傾けてもらうのはとても難しいことでした。今日に至るまで、私はまだ同じ問題に直面しており、人はいつも私をただのクィアのユース女性としか見られないのです。」

ユース代表、ワークショップ、2023年

ユース代表団の討議から、5つの重要な提言が特定された。

1. 集団行動を支援する

ユースは、個々のリーダーよりも集団行動に価値を置いている。ユース代表団は、ジェンダー平等のために一致団結して取り組むために、ネットワーク、パートナーシップ、運動を構築することの重要性を強調した。彼女たちは、連帯の必要性を強調し、女の子や女性が互いに競争するのではなく、むしろ協力し合うことの必要性を強調した。それは家父長制によって、彼女たちの空間が家庭で制限されているように感じられて推し進めるのと同様である。

プランの提言

市民社会組織は、コミュニティレベルを起点に、女の子を組織化し、動員することを支援し、彼女たちの組織が弾力性があり持続可能であるようにしなければならない。指導的地位や権力を得るために、女の子と女性は互いに競争しなければならないと教える否定的なジェンダー規範や社会規範に挑戦する。その代わりに、連帯を促進し、女の子と女性が主導する組織間のネットワーク構築を支援する。

2.女の子やユース女性との共創の形を確立し、制度化する

女の子やユース女性は、現在意思決定の場を支配している伝統的な構造とは異なる形のリーダーシップを求めている。ユース代表団は、単に意思決定の場に女の子やユース女性に席を与えるだけでなく、意思決定のプロセスを共同創造的で協力的なものに再設計することによって、権力をシフトし、社会運動を誘発する必要性を強調した。

「私たちは、女の子やユース女性が組織やNGOで意思決定の一翼を担うための方法を促進しなければならない。」

「女の子やユース女性が、それぞれの社会的背景に応じて、自身のニーズや要求を提案できるような方法を考えるべきである。共創の形態を確立し、制度化する。」

政府の政策や予算計画における現在の不足は、ユースの視点が考慮されていないことに起因している。政府には、女の子やユース女性が政策立案の共同パートナーであり、彼女たちの意見が形だけではなく、意味のあるものにする責任がある。

プランの提言

市民社会組織は、リーダーシップの新しい考え方を奨励すべきであり、リーダーであることが何を意味するかという認識そのものに挑戦し、女の子と女性は権力のある場所と空間に属しているというメッセージを強化すべきである。

省庁や関連機関を含む政府は、公共政策、予算、法律の策定、実施、監視と評価に、女の子とそのネットワークを有意義に参加させ、女の子の参加の影響を追跡するための強力な説明責任メカニズムを設置しなければならない。

信頼を築き、真の参加を促進するために、権力者たちは、女の子とそのネットワークのあらゆるレベルでの意思決定への有意義な貢献を可能にするために、公式で安全かつ包摂的な場を開かなければならない。

3.女の子とユース女性リーダーのための環境を整える

ユース代表団は、女の子が主体性を発揮しリードする能力を支援したり妨げたりする、女の子の環境の役割を特に重視した。有害なジェンダー規範を解体し、女の子を支援するネットワークを作るために、親、保護者、親族が関与すべきである。女の子やユース女性のリーダーシップの可能性と、彼女たちが直面する障害に関する意識向上と参加型対話に、より広いコミュニティを参加させることも重要である。

「親やコミュニティを巻き込んで意識を高める」

「参加型ダイアログまたは『コミュニティ診断』の確立」

ジェンダー・トランスフォーマティブ教育に投資

代表団はまた、有害なジェンダー規範や社会規範に積極的に異議を唱え、それを転換させるジェンダー・トランスフォーマティブ教育の必要性を強調した。特に、ジェンダー不平等の根源に関する情報を女の子や女性に与え、不平等なジェンダー規範の存続を助長するのではなく、それに挑戦するための手段を身につけさせることを提唱した。

「私たちはまた、ジェンダー不平等を繰り返さないよう、女の子たちを教育すべきだ」

「家父長制を解体し、リーダーシップを受け入れるのに役立つ情報を女性と女の子に提供する必要がある」

「『ジェンダーに配慮した』カリキュラムを推進し、女の子に力を与える教科を」

敬意あるコミュニケーションの促進

ユース代表団にとって、あらゆるレベルにおいて「敬意あるコミュニケーション」を促進することは、女の子とユース女性のリーダーシップを推進するために不可欠である。敬意あるコミュニケーションを中心に据えることで、女の子やユース女性の声を無視し黙らせる家長父的社会で彼女たちが経験する複合的な性差別と年齢差別に挑戦する。代表団はまた、女の子とユース女性を含むすべての利害関係者が、協力し合う際に、皆の声が聞いてもらえるように、敬意あるコミュニケーションを採用し、維持することの重要性を強調した。

プランの提言

政府、学校、市民社会組織は、性差別と差別に挑まなければならない：リーダーシップへの野心を追求することを女の子に躊躇させる、蔓延する差別的文化に早急に取り組まなければならない。

親、学校、宗教団体、文化団体は、女の子のリーダーとしての願望を育む強力な支援ネットワークを構築するための重要な入口と見なされるべきである。女の子がリーダーになることを可能にすることで、社会の平等を育むことができるという女の子独自の能力を家族にもっと認識させることに力を注ぐべきである。

4.女の子やユース女性リーダーを反発から守る

女の子やユース女性が発言するために、精神的、身体的、性暴力やハラスメントのリスクを負う必要はない。仲間、家族、コミュニティ、同僚、そしてオンライン空間を含むより広い社会からの否定的な反応や有害な行動をめぐる懸念は、多くの女の子や女性が指導的役割を担うことを妨げている。女の子やユース女性が有意義に参加できるようにするためには、女の子や女性のリーダーに対する暴力やハラスメントを防止することが優先されなければならない。

「女の子/活動家が発言する場合の安全確保」

プランの提言

政府、職場、そしてより広範な市民社会は、公的に活動するあらゆる多様性をもった女の子と女性が受ける、セクシャルハラスメントによる暴力の経験を防止し、それに対応するための確固とした措置を講じなければならない。既存の法律や政策を執行し、報告メカニズムを強化しなければならない。女性に対するあらゆる形態の暴力に反対する公的キャンペーンに資金を提供し、推進しなければならない。

5.ターゲットとなるメディアと女性・女の子リーダーの表現

ユースの代表団は、ジェンダー・ステレオタイプを永続させる上でメディアが果たす重要な役割と、こうしたステレオタイプに異議を唱え、女の子や女性に声を増幅させる機会を提供するメディアの可能性を強調した。ユースが、自身を表現する方法を身につけ、自身のアイデアをより多くの人々に届けることができるよう、メディア・プラットフォームへの高いアクセス性を確保することが重要である。特に、ユース代表団は、主流メディアと代替メディア・プラットフォームの創設と支援の両方を目標にすることを推奨した。

「代替メディアのプラットフォームは、私たちの考えを自由に共有する機会を提供してくれる」

プランの提言

特にメディアは、女性リーダーに対するステレオタイプを蔓延させている自身の役割を認識しなければならない。多様性、肯定的なイメージ、肯定的な言葉は、女性の描かれ方を変え、女の子やユース女性に必要な励ましを与え、女の子が現在経験している差別や敵意を助長するのではなく、ジェンダー平等を促進することができる。

写真© Plan International
ニジェールでは、2022年11月に「Girls Out Loud」運動が正式に開始され、勢いを増している。14～24歳の100人超の女の子がこの集団に参加しており、女の子たちがバーチャルに集まって、自身の生活に影響を及ぼす問題について議論を主導している。こうした議論から得られた洞察は、彼女たちが直面する問題の解決策を見出すために活用され、彼女たちがコミュニティやより広い舞台でリーダーになるための支援となっている。

謝辞

これらの調査研究に参加した女の子とユース女性の時間と洞察力に感謝したい。Farida Allyをはじめ、プランの活動に携わるユースたちが、本報告書に示した提言に貢献してくれたことに感謝したい。

この報告書はJenny RivettとKeya Khandaker博士が執筆した。

Madeleine Askham、Jacqueline Gallinetti、Danny Plunkettの貴重な意見に感謝する。最後に、これら3つの調査研究の計画、実施、報告に携わったすべての人々に感謝する。

調査方法

本報告書は、「リーダーになる」(2019年)、「世界ガールズ・レポート」(2022年)、および「現実の選択、現実の生活」の調査で2021年と2022年に収集されたデータから、既存の質的・量的証拠を抽出したものである。女の子の主体性とリーダーシップに関する主要な学びが、リーダーになると世界ガールズ・レポートから明らかにされ、この証拠が現実の選択、現実の生活のデータの新たな分析に活用され、縦断的な視点から女の子の主体性を探ることになった。

毎年の「現実の選択、現実の生活」データは、NVivoでコード化され、国毎、女の子毎に要約レポートが作成される。この統合報告書に必要な主体性とリーダーシップに関する追加分析を行うために、これらの既存の資料は使われた。

3つの調査のデータ収集は、倫理的調査基準に沿って実施され、3つの調査それぞれについて倫理的承認を得た。実施されたすべての研究は、プランの子ども・ユース保護方針を遵守した。

プラン・インターナショナルについて

私たちは、世界中の女の子のために子どもの権利と平等を推進するために努力している。私たちは、子ども一人ひとりの力と可能性を認めている。しかし、それは貧困、暴力、排除、差別によって抑圧されがちである。そして最も影響を受けているのは女の子なのだ。

独立した開発・人道支援団体として、私たちは子どもやユース、支援者やパートナーとともに、女の子やすべての弱い立場の子どもが直面する課題の根本原因に取り組んでいる。生まれてから大人になるまで子どもの権利を支援し、子どもが危機や逆境に備え、対応できるようにする。私たちの活動範囲、経験、知識を活用し、地域、国、世界レベルで実践と政策の変革を推進する。85年超にわたり、子どものために強力なパートナーシップを構築し、80カ国超で活動している。

Plan International
Dukes Court,
Block A,
Duke Street,
Woking,
Surrey
GU21 5BH
United Kingdom

twitter.com/planglobal
facebook.com/planinternational
instagram.com/planinternational
linkedin.com/company/plan-international
youtube.com/user/planinternationaltv

Text © Plan International unless otherwise noted. Published in 2023.